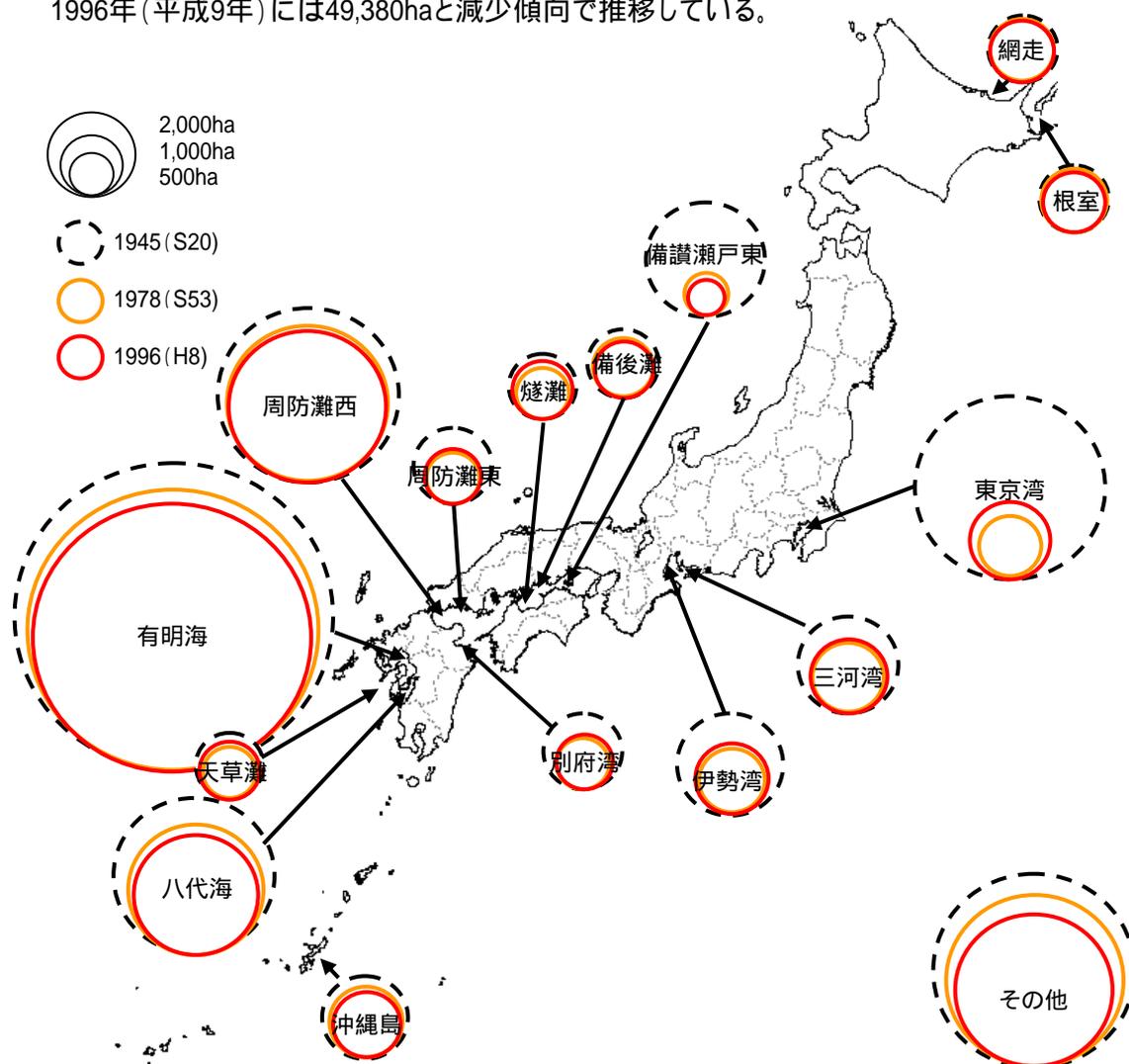


# 干潟・藻場・サンゴの減少

## 干潟面積の推移

全国の干潟面積は、1945年(昭和20年)には82,621ha、1978年(昭和53年)には53,856ha、1996年(平成9年)には49,380haと減少傾向で推移している。



主な海域における干潟面積の推移

単位: ha, %

	干潟面積		増減		比率	
	1945(S20)	1978(S53)	1945(S20)	1978(S53)	1945(S20)	1996(H9)
	(A)	(B)	(B-A)	(C-B)	(C)	(C/A)
全国	82621	53856	-28765	-4,476	49,380	60
網走	1270	1092	-178	-1	1,091	86
根室	1124	1124	0	-75	1,049	93
東京湾	9449	1016	-8433	718	1,734	18
伊勢湾	2939	1153	-1786	222	1,375	47
三河湾	2627	1367	-1260	159	1,526	58
周防灘西	8590	6739	-1851	-207	6,532	76
周防灘東	1638	719	-919	122	841	51
別府湾	1598	702	-896	-264	438	27
備後灘	1308	920	-388	-43	877	67
燧灘	1198	758	-440	218	976	81
備讃瀬戸東	3715	492	-3223	-119	373	10
天草灘	1131	973	-158	-543	430	38
有明海	26609	22226	-4383	-1,835	20,391	77
八代海	6867	4878	-1989	-796	4,083	59
沖縄島	1962	1436	-526	-233	1,203	61
その他	10596	8261	-2335	-1,799	6,462	61

データ出典: 自然環境保全基礎調査(第2回、第5回)

注1: 1945年の値は、第2回(干潟・藻場・サンゴ礁分布調査)の現存干潟面積と消滅干潟面積を加えたもの。

1978年の値は、第2回(干潟・藻場・サンゴ礁分布調査)の現存干潟面積。

1996年の値は、第5回(海辺調査)の現存干潟面積。

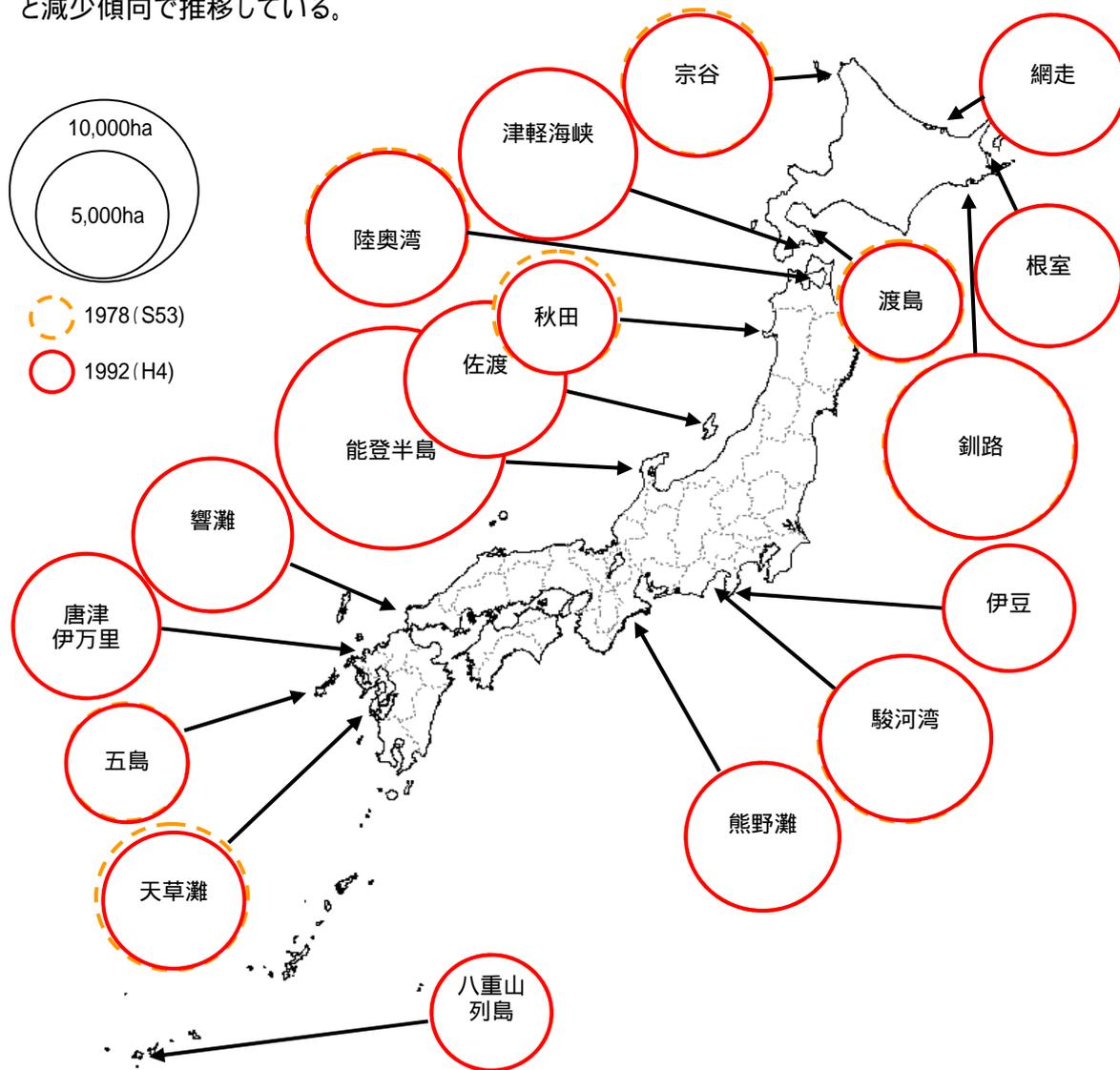
注2: 主な海域は、1945年の干潟面積が1000ha以上の海域

注3: 網走の1996年の数値は第4回自然環境保全基礎調査

注4: 第5回は兵庫県(第4回69ha)、徳島県(第4回124ha)を含まない

## 藻場面積の推移

全国の藻場面積は、1978年(昭和53年)には207,615ha、1992年(平成4年)には201,212haと減少傾向で推移している。



主な海域における藻場面積の推移 単位: ha, %

	藻場面積		藻場面積	比率
	1978(S53)	増減		
	(A)	(B-A)	(B)	(B/A)
全国	207,615	6,403	201,212	97
宗谷	6,358	258	6,100	96
網走	5,980	7	5,973	100
根室	6,030	3	6,027	100
釧路	10,263	0	10,263	100
秋田	4,592	755	3,837	84
渡島	4,453	341	4,112	92
佐渡	7,350	44	7,306	99
能登半島	14,827	66	14,761	100
陸奥湾	7,447	374	7,073	95
津軽海峡	8,746	2	8,744	100
伊豆	4,840	14	4,826	100
駿河湾	8,369	131	8,238	98
熊野灘	6,700	54	6,646	99
響灘	7,152	15	7,137	100
唐津伊万里	6,373	7	6,366	100
天草灘	6,522	948	5,574	85
五島	4,231	89	4,142	98
八重山列島	4,107	16	4,091	100
主要海域計	123,064	1,848	121,216	98
その他計	84,551	4,555	79,996	95

データ出典: 自然環境保全基礎調査(第4回)

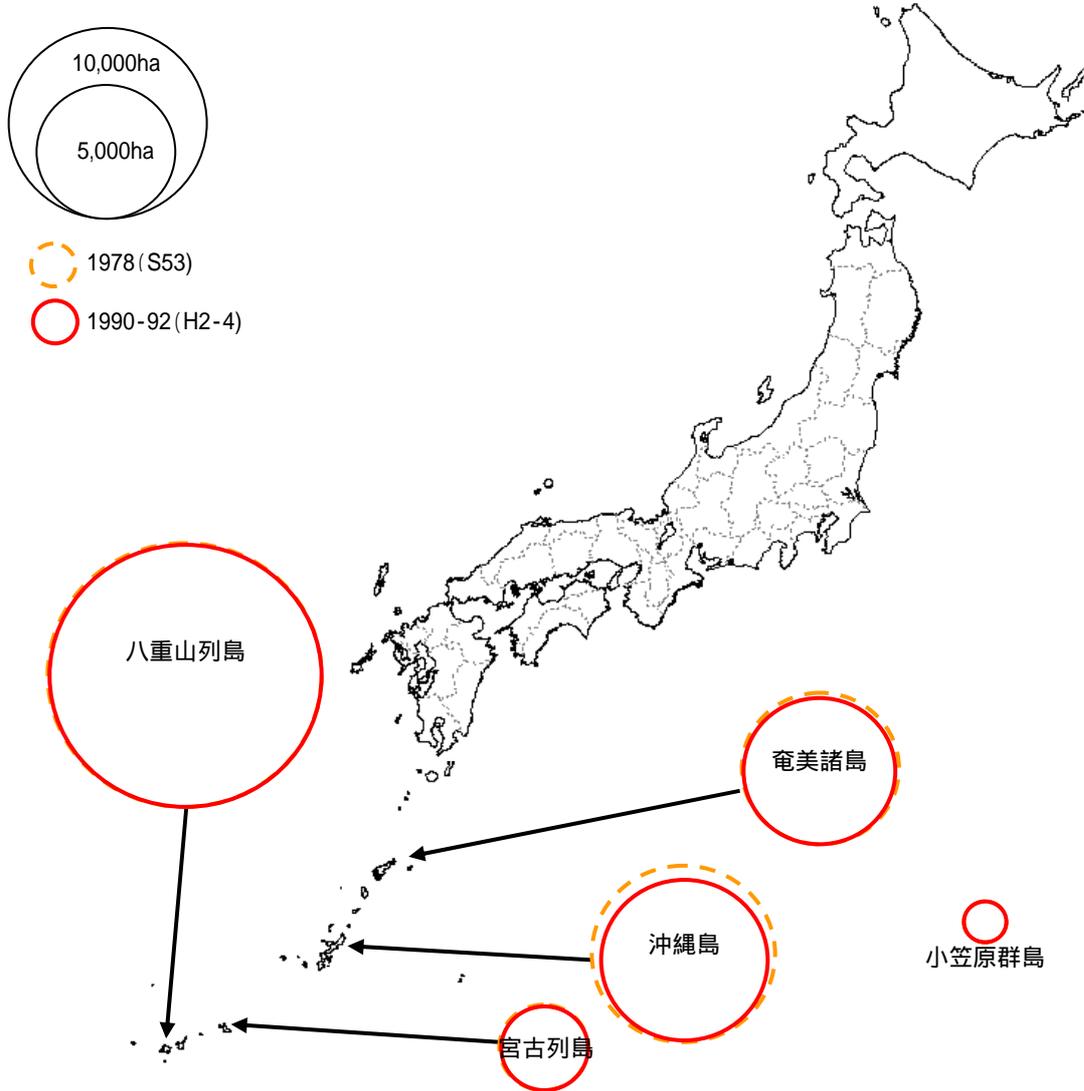
注1: 1978年の値は、第4回(海域生物環境調査)の現存藻場面積と消滅藻場面積を加えたもの。

1992年の値は、第4回(海域生物環境調査)の現存藻場面積。

注2: 主な海域は、1978年の藻場面積が4,000ha以上の海域

## サンゴ礁海域におけるサンゴ群集面積の推移

全国のサンゴ礁海域におけるサンゴ群集の面積は、1978年(昭和53年)には36,495ha、1990-92年(平成2-4年)には34,186haと減少傾向で推移している。



主なサンゴ礁海域におけるサンゴ群集面積の推移 単位:ha,%

サンゴ群集	サンゴ群集		サンゴ群集	
	面積 1978(S53)	増減	面積 1990-92 (H2-4)	比率 (1978-92)
	(A)	(B-A)	(B)	(B/A)
奄美諸島	6,372	420	5,951	93
沖縄島	8,719	1,672	7,046	81
宮古列島	2,060	103	1,957	95
八重山列島	19,342	111	19,232	99
小笠原群島	461	5	456	99
計	36,495	2,314	34,186	94

データ出典: 自然環境保全基礎調査(第4回)

注1:1978年の値は、第4回(海域生物環境調査)の現存藻場面積と消滅藻場面積を加えたもの。  
1990-92年の値は、第4回(海域生物環境調査)の現存藻場面積。

注2:主なサンゴ礁海域は、サンゴ礁が形成される海域のうちトカラ列島を除くもの。

日本全国の藻場・干潟・サンゴ礁等の分布に関する現状と、国立・国定公園に藻場・干潟・サンゴ礁が含まれる割合等について、既存のGISデータを用いて分析した。(資料3-2～3-6)

・分析内容

	テーマ	重ねあわせデータ	分析内容	図示対象地域
資料3-2	サンゴ礁と国立・国定公園	国立・国定公園 × サンゴ礁	サンゴ礁が国立・国定公園に含まれる割合など	
資料3-3	藻場と国立・国定公園	国立・国定公園 × 藻場	藻場が国立・国定公園に含まれる割合など	
資料3-4	干潟と国立・国定公園	国立・国定公園 × 干潟	干潟が国立・国定公園に含まれる割合など	瀬戸内海国立公園
資料3-5	マングローブ林と国立・国定公園	国立・国定公園 × マングローブ林	マングローブ林が、国立・国定公園に含まれる割合など	西表国立公園
資料3-6	海辺植生と国立・国定公園	国立・国定公園 × 海辺植物群落	海辺の植生で植生自然度が9、10の群落が国立・国定公園に含まれる面積など	



資料 3-2. サンゴ礁と国立・国定公園

(サンゴ礁が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- ・ きわめて多様な生物群集が見られ、沿岸域における重要な生育環境であるサンゴ礁を国立・国定公園がどの程度カバーしているのかの確認。

【分析の概要】

- ・ サンゴ礁が国立・国定公園に含まれる面積及び全サンゴ礁面積に対する割合

		サンゴ礁の面積	全サンゴ礁面積 に対する割合
内 訳	国立公園(普通地域)	12,368 ha	26.3(%)
	国立公園(海中公園)	270 ha	0.6(%)
	国定公園(普通地域)	6,986 ha	14.9(%)
	国定公園(海中公園)	536 ha	1.1(%)
公園内		20,160ha	42.9(%)
公園外		26,818ha	57.1(%)
サンゴ礁全面積		46,978ha	100(%)

注 1: 四捨五入の関係上、合計しても 100%にならない場合がある。

注 2: 第一回懇談会時より、GIS データを修正したため、若干値が異なっている。

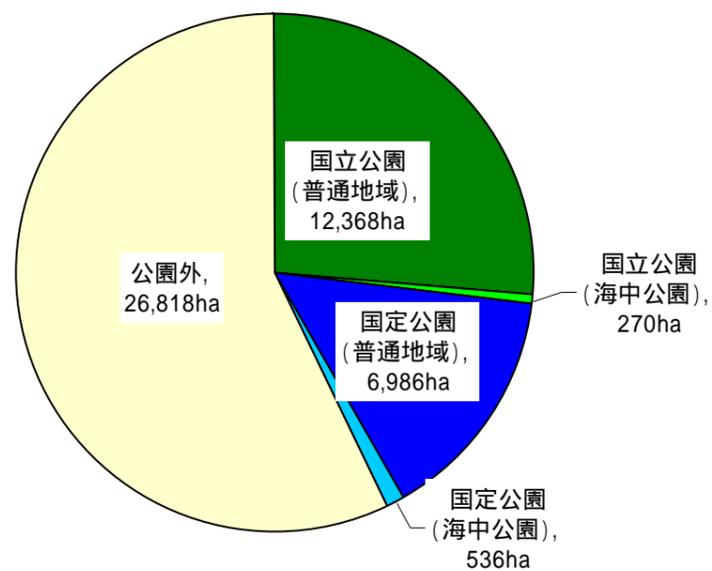


図 1 サンゴ礁面積のうち国立・国定公園が占める面積

【分析結果】

全国に分布するサンゴ礁の 42.9%が国立・国定公園(うち 26.3%が国立公園普通地域、0.6%が国立公園の海中公園、14.9%が国定公園普通地域、1.1%が国定公園内の海中公園)でカバーされていることが確認された。(サンゴ礁の約6割近くは国立・国定公園外に生息している。)

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・国立・国定公園(環境省自然環境情報GIS)基礎データを基に修正
サンゴ礁	・サンゴ礁(環境省自然環境情報GIS: 第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査)

資料 3-3. 藻場と国立・国定公園

(藻場が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- 沿岸浅所の特色ある生物の生息場であり、生態学的にも、水産資源保護の観点からも重要な役割を果たしている藻場を国立・国定公園がどの程度カバーしているのかの確認。

【分析の概要】

- 藻場が国立・国定公園に含まれる面積及び全藻場面積に対する割合。

		北海道区	日本海北区	太平洋北区	日本海西区	太平洋中区	太平洋南区	瀬戸内海区	東シナ海区 (大隅諸島以東)	東シナ海区 (奄美以西)	全面積	割合
内訳	国立公園(普通地域)	1,123ha	0 ha	2,851 ha	3,939 ha	10,221 ha	531 ha	6,633 ha	5,795 ha	0 ha	31,093 ha	18.6%
	国立公園(海中公園)	0 ha	0 ha	13 ha	53 ha	10 ha	7 ha	0 ha	26 ha	0 ha	109 ha	0.1%
	国定公園(普通地域)	3,338 ha	18,518 ha	4,747 ha	5,322 ha	1,618 ha	2,110 ha	709 ha	7,044 ha	248 ha	43,654 ha	26.1%
	国定公園(海中公園)	25 ha	55 ha	0 ha	30 ha	5 ha	37 ha	0 ha	46 ha	0 ha	197 ha	0.1%
公園内		4,486 ha	18,573 ha	7,611 ha	9,343 ha	11,854 ha	2,684 ha	7,343 ha	12,911 ha	248 ha	75,053 ha	44.8%
公園外		17,462 ha	16,312 ha	15,080 ha	3,374 ha	12,755 ha	1,924 ha	4,523 ha	18,608 ha	2,367 ha	92,407 ha	55.2%
合計		21,948 ha	34,885 ha	22,691 ha	12,717 ha	24,609 ha	4,609 ha	11,866 ha	31,519 ha	2,615 ha	167,459 ha	100.0%
海区別面積が全面積に占める割合		13.1%	20.8%	13.6%	7.6%	14.7%	2.8%	7.1%	18.8%	1.6%	100.0%	

- それぞれの海区内で藻場が国立・国定公園に含まれる割合。

		北海道区	日本海北区	太平洋北区	日本海西区	太平洋中区	太平洋南区	瀬戸内海区	東シナ海区 (大隅諸島以東)	東シナ海区 (奄美以西)
内訳	国立公園(普通地域)	5.1%	0.0%	12.6%	31.0%	41.5%	11.5%	55.9%	18.4%	0.0%
	国立公園(海中公園)	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
	国定公園(普通地域)	15.2%	53.1%	20.9%	41.8%	6.6%	45.8%	6.0%	22.3%	9.5%
	国定公園(海中公園)	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.1%	0.0%
公園内		20.4%	53.2%	33.5%	73.5%	48.2%	58.2%	61.9%	41.0%	9.5%
公園外		79.6%	46.8%	66.5%	26.5%	51.8%	41.8%	38.1%	59.0%	90.5%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注1：四捨五入の関係上、合計しても100%にならない場合がある。

注2：太平洋北区は日本海北区の一部の藻場を、太平洋中区は太平洋南区の一部の藻場を、瀬戸内海区は東シナ海区および太平洋南の一部の藻場を含む。

【分析結果】

- 全国に分布する藻場の44.8%が国立・国定公園(うち18.6%が国立公園普通地域、0.1%が国立公園の海中公園、26.1%が国定公園普通地域、0.1%が国定公園内の海中公園)でカバーされていることが確認された。藻場の約5割以上が国立・国定公園外に生育している。
- 海区別にみると、最も藻場面積の広い海区は日本海北区であり、全藻場面積の20.8%(34,885ha)を占めている。このうち53.2%が国定公園に含まれる。
- 藻場が国立・国定公園に含まれる割合は海区別にばらつきがあり、藻場面積の半分以上が国立・国定公園外である海区は、北海道、太平洋北、太平洋中、東シナ海(奄美以西、大隅諸島以東)である。東シナ海区(奄美以西)では藻場面積の90.5%が国立・国定公園外である。一方、日本海西区では藻場面積の73.4%が国立・国定公園に含まれる。

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・国立・国定公園(環境省自然環境情報GIS)基礎データを基に修正
藻場	・藻場(環境省自然環境情報GIS:第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査)

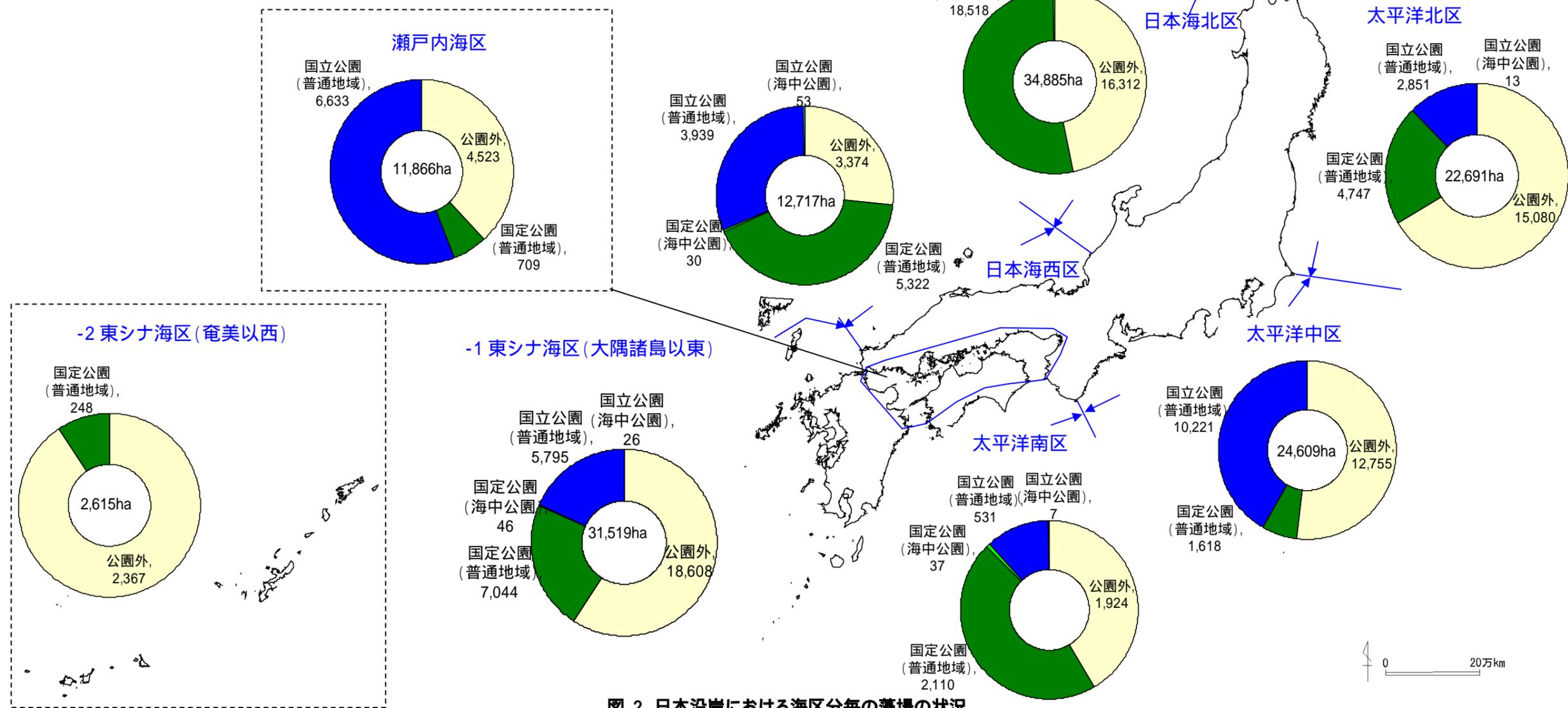
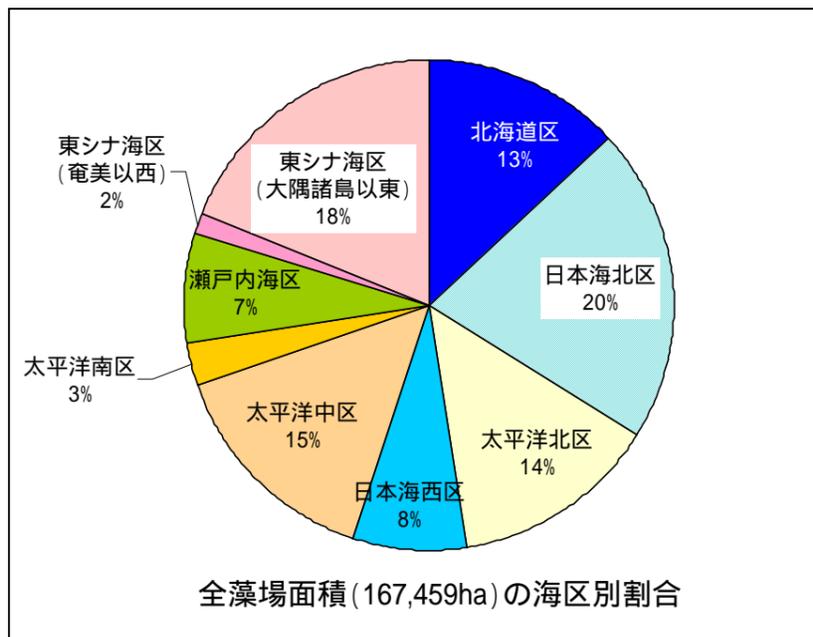


図2 日本沿岸における海区分毎の藻場の状況

出典: 「国立・国定公園: (環境省自然環境情報 GIS を基に修正)」、「海岸線データ: 日本全域海岸線データ, 海洋情報センター、1996~2000年(10万の1を代表縮尺として編集されている)」、「藻場: 環境省自然環境情報 GIS 第5回自然環境保全基礎調査」注) 太平洋北区は日本海北区の一部の藻場を、太平洋中区は太平洋南区の一部の藻場を、瀬戸内海区は東シナ海区および太平洋南の一部の藻場を含む。

資料 3-4. 干潟と国立・国定公園

(干潟が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- ・ 魚類や貝類の生息の場であるばかりでなく、シギやチドリ類などの渡り鳥の重要な生息の場としても重要な役割を果たしている干潟を国立・国定公園がどの程度カバーしているのかの確認。

【分析の概要】

- ・ 干潟が国立・国定公園に含まれる面積及び全干潟面積に対する割合。

		北海道区	太平洋北区	日本海西区	太平洋中区	太平洋南区	瀬戸内海区	東シナ海区 (大隅諸島以東)	東シナ海区 (奄美以西)	全面積	割合
内 訳	国立公園	0 ha	1 ha	0 ha	69 ha	0 ha	1,899 ha	380 ha	53 ha	2,402 ha	5.4%
	国定公園	0 ha	0 ha	0 ha	364 ha	26 ha	9 ha	192 ha	283 ha	874 ha	2.0%
公園内		0 ha	1 ha	0 ha	433 ha	26 ha	1,907 ha	572 ha	336 ha	3,276 ha	7.3%
公園外		1,261 ha	1,445 ha	43 ha	4,611 ha	716 ha	5,709 ha	25,333 ha	2,188 ha	41,305 ha	92.7%
合計		1,261 ha	1,446 ha	43 ha	5,044 ha	743 ha	7,616 ha	25,904 ha	2,524 ha	44,581 ha	100.0%
海区別面積が全面積に占める割合		2.8%	3.2%	0.1%	11.3%	1.7%	17.1%	58.1%	5.7%	100.0%	

- ・ それぞれの海区内で干潟が国立・国定公園に含まれる割合。

		北海道区	太平洋北区	日本海西区	太平洋中区	太平洋南区	瀬戸内海区	東シナ海区 (大隅諸島以東)	東シナ海区 (奄美以西)	全面積
内 訳	国立公園	0.0%	0.1%	0.0%	1.4%	0.0%	24.9%	1.5%	2.1%	5.4%
	国定公園	0.0%	0.0%	0.0%	7.2%	3.5%	0.1%	0.7%	11.2%	2.0%
公園内		0.0%	0.1%	0.0%	8.6%	3.5%	25.0%	2.2%	13.3%	7.3%
公園外		100.0%	99.9%	100.0%	91.4%	96.5%	75.0%	97.8%	86.7%	92.7%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注1：四捨五入の関係上、合計しても100%にならない場合がある

【分析結果】

- ・ 干潟は5.4%(2,402ha)が国立公園に、2.0%(874ha)が国定公園に含まれるが、その90%以上は公園外に位置している。
- ・ 海区別にみると、最も干潟面積の広い海区は東シナ海区(大隅諸島以東)であり、全干潟面積の58.1%を占めている。このうち、国立・国定公園に含まれる面積は2.2%(572ha)である。
- ・ 干潟が最も多く公園内に含まれるのは瀬戸内海区であり、25.0%(1,907ha)が国立・国定公園に含まれる。

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・ 国立・国定公園(環境省自然環境情報GIS)基礎データを基に修正
干潟	・ 干潟(環境省自然環境情報GIS:第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査)

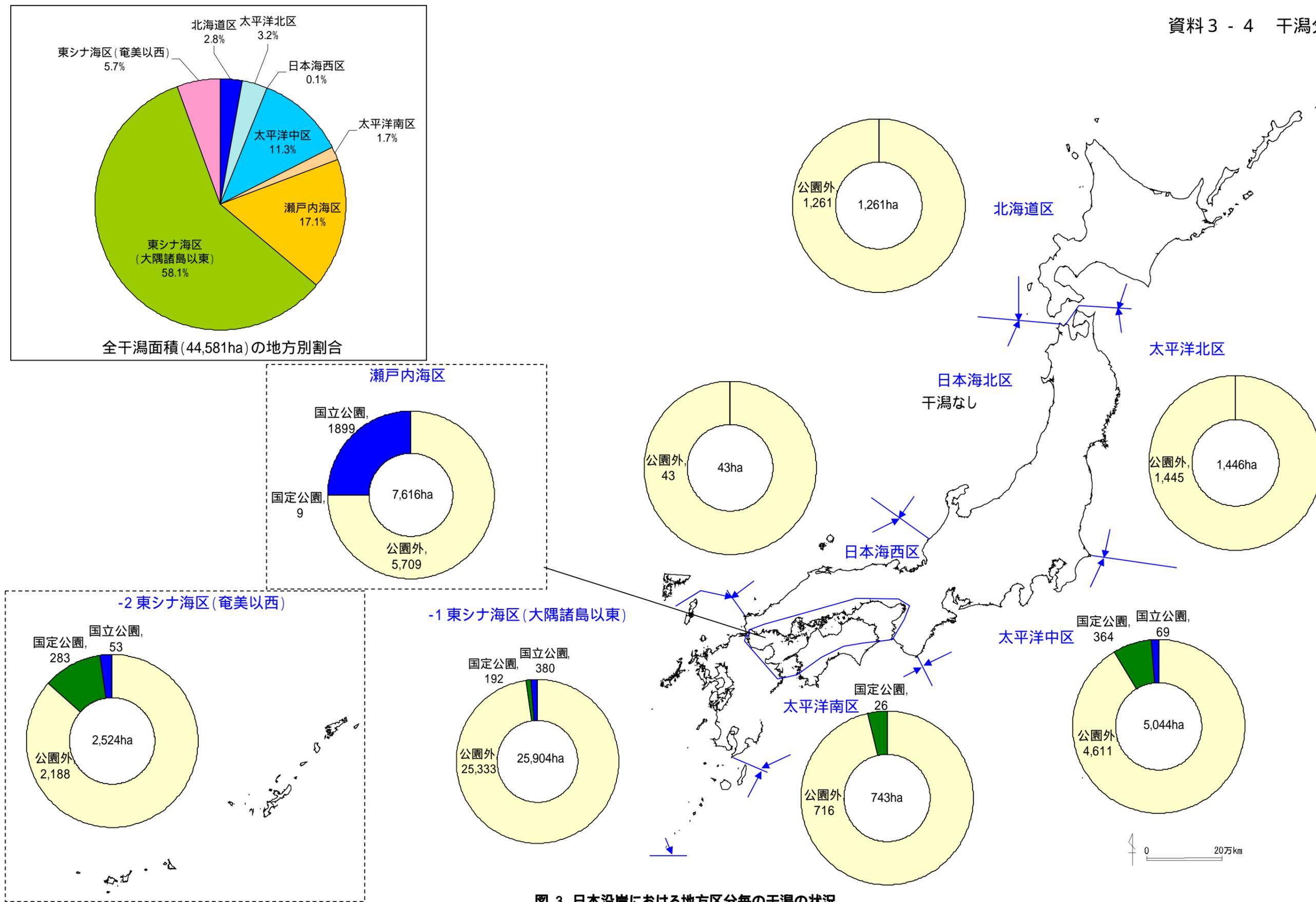


図3 日本沿岸における地方区分毎の干潟の状況

出典：「国立・国定公園：(環境省自然環境情報 GIS を基に修正)」、「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000年(10万の1を代表縮尺として編集されている)」、「干潟：環境省自然環境情報 GIS 第5回自然環境保全基礎調査」

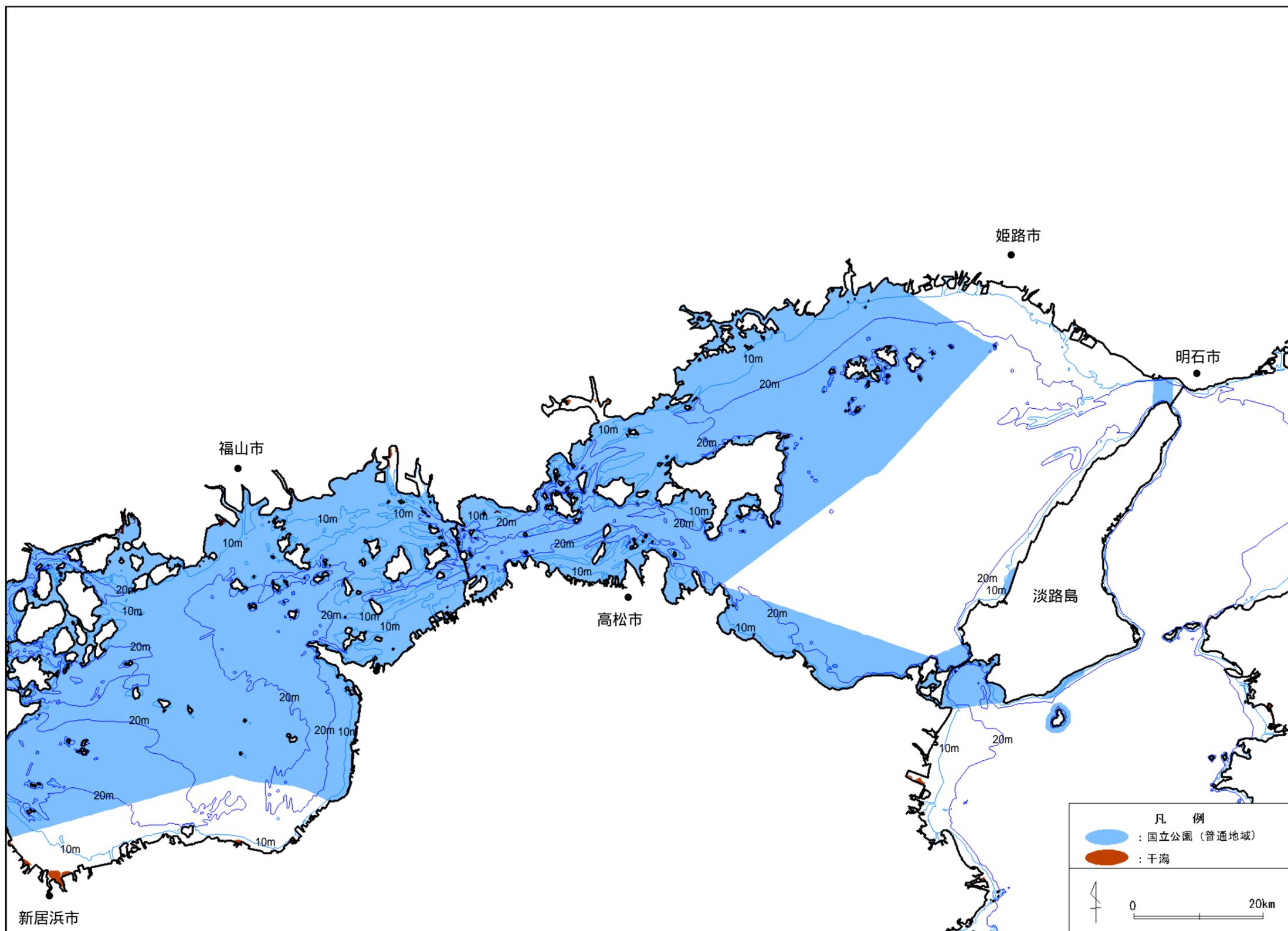


図 4(1) 瀬戸内海国立公園周辺における干潟の状況

出典：「国立・国定公園：（環境省自然環境情報 GIS を基に修正）」、「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000 年（10 万の 1 を代表縮尺として編集されている）」、「干潟：環境省自然環境情報 GIS 第 5 回自然環境保全基礎調査」

注：海域にかからない国立・国定公園は示していない。

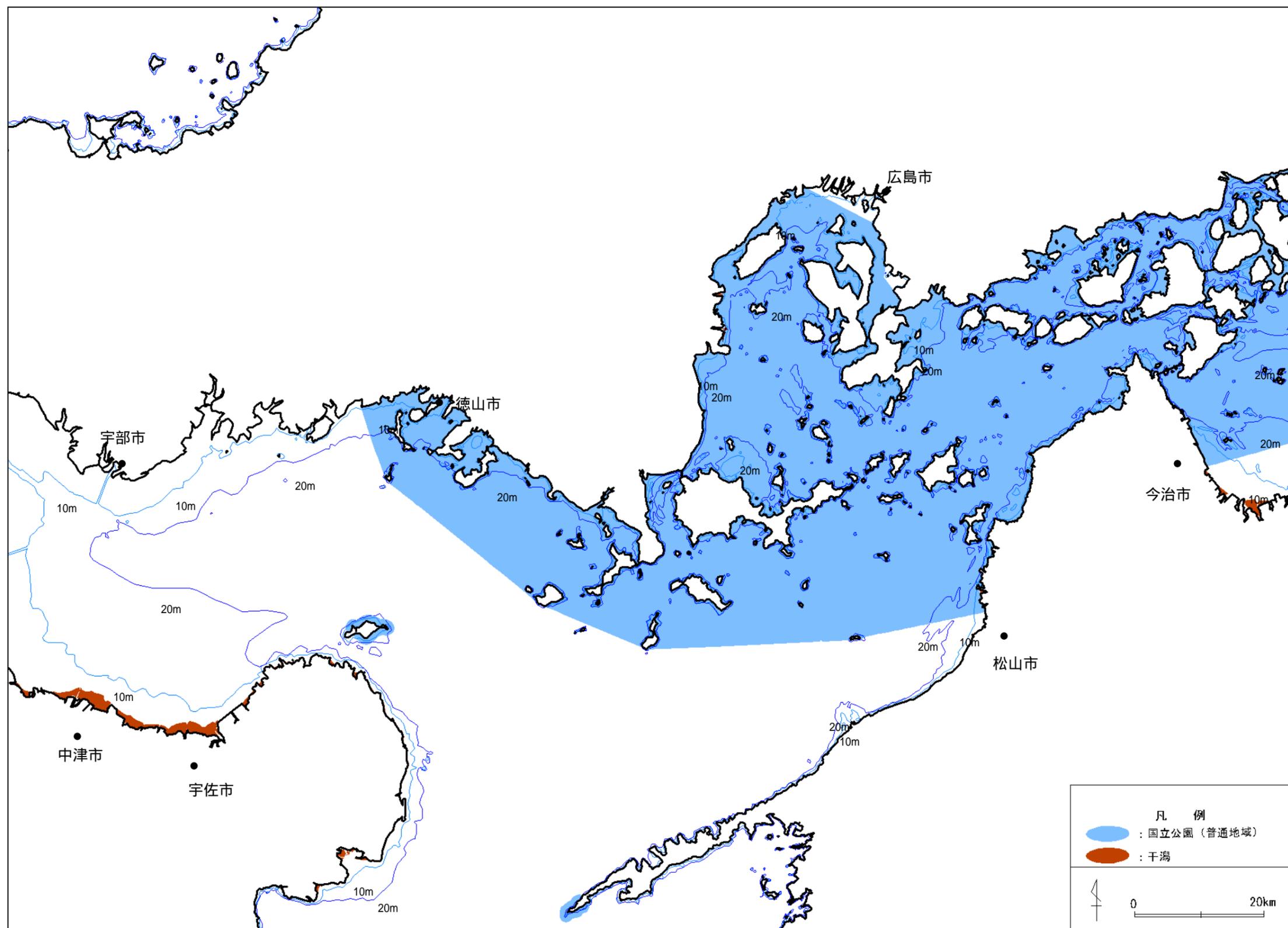


図 4(2) 瀬戸内海国立公園周辺における干潟の状況

出典：「国立・国定公園：(環境省自然環境情報 GIS を基に修正)」、「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000 年(10 万の 1 を代表縮尺として編集されている)」、「干潟：環境省自然環境情報 GIS 第 5 回自然環境保全基礎調査」

注：海域にかからない国立・国定公園は示していない。

資料 3-5. マングローブ林と国立・国定公園

(マングローブ林が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- ・ 独自の生態系をもち、魚介類の重要な生息地であるマングローブ林を国立・国定公園がどの程度カバーしているのかの確認。

【分析結果】

- ・ マングローブ林 2,148ha のうち、868ha(40.4%)が国立公園に含まれる。

【分析の概要】

- ・ マングローブ林が国立・国定公園に含まれる面積及び全マングローブ林面積に対する割合

	マングローブ林の面積	全マングローブ林面積に対する割合
公園内(国立公園のみ)	868ha	40.4%
公園外	1,280 ha	59.6%
マングローブ林全面積	2,148ha	100%

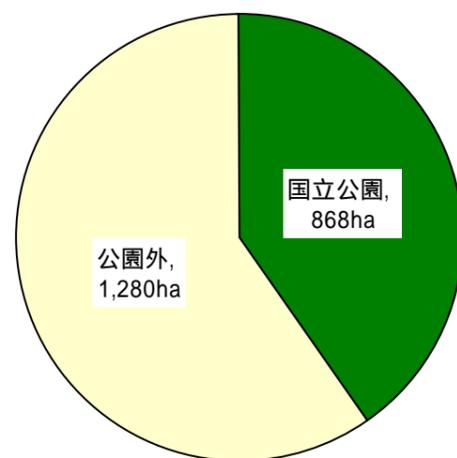


図 5 マングローブ林のうち国立公園に含まれる面積

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・ 国立・国定公園 (環境省自然環境情報GIS) 基礎データを基に修正
マングローブ林	・ マングローブ林 (環境省自然環境情報GIS: 第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査)

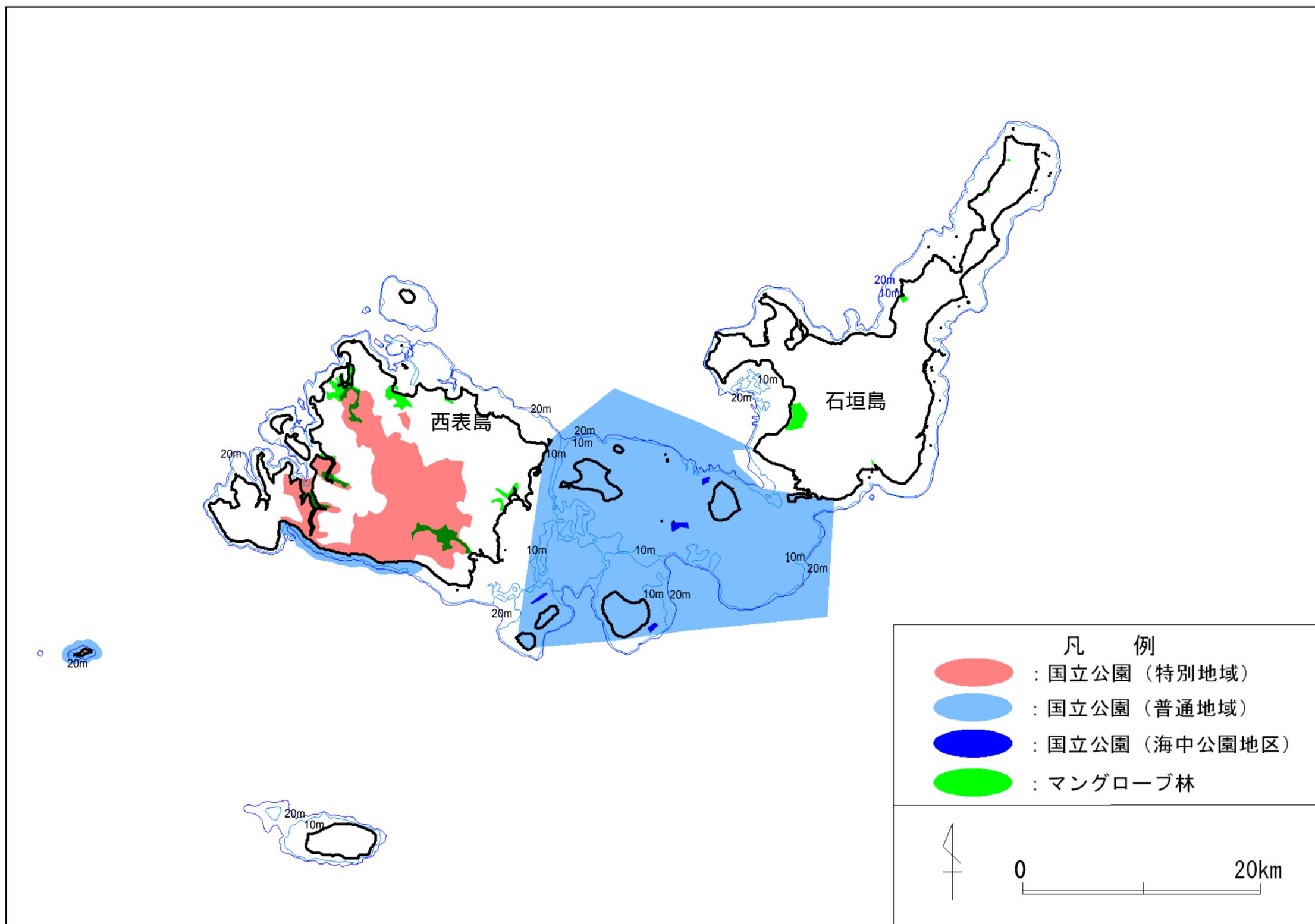


図6 西表国立公園におけるマングローブ林の状況

出典：「国立・国定公園：（環境省自然環境情報 GIS を基に修正）」、「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000年（10万の1を代表縮尺として編集されている）」、「等深線データ：沿岸海の基本図シェープファイル（慶良間列島）、海洋情報センター」、「マングローブ林：環境省自然環境情報 GIS 第5回自然環境保全基礎調査」

資料 3-6. 海辺植生と国立・国定公園

(海辺の植生で植生自然度が9、10の群落は国立・国定公園に含まれる面積)

【分析目的】

・海辺に生育する自然度の高い植生群落(自然度9:自然植生のうち単層の植物社会を形成する。自然度10:自然植生のうち多層の植物社会を形成する)を国立・国定公園がどの程度カバーしているのかの確認。

【分析の概要】

・自然度9・10に分類される植生のうち、海辺に生育すると考えられる植生群落の面積が国立・国定公園に含まれる面積及び全海浜植生面積に対する割合

	海辺の植生の面積	全海辺の植生面積に対する割合
公園内	15,600ha	26.1%
内		
国立公園	6,634ha	(11.1%)
国定公園	8,966ha	(15.0%)
公園外	44,058ha	73.9%
海辺の植生全面積	59,658ha	100%

注1:四捨五入の関係上、合計しても100%にならない場合がある。

注2:海辺に生育する植生面積は、海岸部にのみ生育する植生及び、水際に生育する植生(海岸から1km以内)の群落面積とした。

(植生群落の例:自然環境保全基礎調査の群落名)

海岸部にのみ生育する植生:砂丘群落、塩沼地群落、砂丘植生、ハマナス群落など

水際に生育する植生:ヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落など

【分析結果】

全国の海辺の植生面積のうち、国立・国定公園がカバーする面積及びその割合は10,034ha(25.0%)であった。このうち、国立公園がカバーする面積は4,795ha(12.0%)、国定公園がカバーする面積は5,239ha(13.0%)であり、自然度の高い海辺の植生は、1/4程度しかカバーできていないことがわかった。

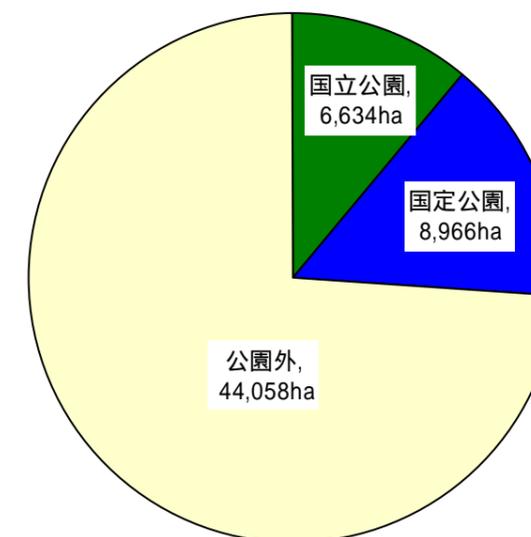


図7 海辺の植生群落(自然度9、10の群落)面積のうち国立・国定公園が占める面積

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・国立・国定公園(環境省自然環境情報GIS)基礎データを基に修正
海辺植生	・植生調査(環境省自然環境情報GIS:自然環境保全基礎調査 第5回植生調査(平成6~10年度))

海域に係る重要湿地数は 156 箇所、そのうち 90 箇所（約 58%）が国立・国定公園内に分布している。

地域	海域に係る 重要湿地数	国立公園		国定公園		公園外
		海中公園 地区内	普通地域内	海中公園 地区内	普通地域内	
北海道	9	0	2	0	2	5
東北	14	0	4	1	4	5
関東	15	1	4	1	3	7
甲信越・北陸	9	0	0	4	3	2
東海・中部	11	0	2	0	0	9
近畿	8	1	2	0	0	5
山陰・山陽	12	4	4	0	3	1
四国	13	1	2	1	5	4
九州	42	1	6	8	12	15
沖縄	23	4	2	2	5	10
計	156	12	28	17	33	63

重要湿地：湿原、河川、湖沼、干潟、藻場、マングローブ林、サンゴ礁などのうち生物の生息地として規模の大きな湿地や希少種が生息している湿地等。全国で 500 箇所を選定している。

